令和４年度

事 業 報 告 書

自　　令和４年４月 １ 日

至　　令和５年３月 31 日

公益財団法人ヒロシマ平和創造基金

事業報告　（令和４年４月１日から令和５年３月 31 日まで）

設立の目的及び概況

【設立の目的】

ヒロシマ平和創造基金は、人類最初の原爆の惨禍を体験した広島市民の平和への願いと使命感を高め、さまざまな平和活動および国際交流、協力活動などの推進や支援を目的に 2012（平成 24）年２月に一般財団法人として設立されました。同年８月６日に国から公益財団法人の認定を受け、平和並びに国際交流活動に取り組んでいます。

【設立年月日】

2012 年２月１日。同年８月６日公益財団法人へ移行。

【事業の概況】

ヒロシマ平和創造基金が取り組む事業は「平和活動」と「国際交流活動」の２つのカテゴリーに分かれ、７つの推進・支援事業を行っています。

「平和活動」は４事業。ヒロシマの心を視覚的にアピールするポスターを通じ国内外へ平和を訴える「ヒロシマ・アピールズポスター」、中国新聞社のヒロシマ平和メディアセンターと連携し行う「ヒロシマ情報の多言語発信」、県民の草の根的な活動を助成する「ヒロシマピースグラント」、そして「ひろしまフラワーフェスティバル」です。

もう１つの柱である「国際交流活動」は３つの事業から成ります。「国際交流フェスティバル（ぺあせろべ）」は、国際交流活動に携わる市民団体等と協力し、バザーや芸能、ゲームなどを通して広島在住の外国人と市民の交流を図る事業です。「ヒロシマ・スカラシップ」は音楽・美術・工芸等の芸術を学ぶ若者の奨励を目的とし奨学金を支給します。「国際交流奨励賞」は、国境を越えて地道な平和・交流活動を続ける市民団体や個人を表彰します。

「ヒロシマ情報の多言語発信」を除く６事業は、当基金の公益財団法人認定を機に財団法人広島国際文化財団の取り組みを引き継ぎました。これからも同財団と連携しながら、平和につながる活動を積極的に推進、支援していきたいと考えています。

【実施事業】

1. 第 45 回ひろしまフラワーフェスティバル関連事業（４～５月）

平時は広島市の平和大通りなどで５月３～５日の３日間開催され約 160 万の人出で賑わうひろしまフラワーフェスティバル」(FF)。2022 年度もコロナ禍のため広島市中区の平和大通りでのパレードや物産展など広域的な展開を控え、平和記念公園での花の塔や芝生展示、国際会議場を主会場としたステージプログラムのオンライン配信をメインに開催。当基金は花の塔およびフラワーキャンドルの設営、花のモニュメント、ステージプログラムのオンライン配信の３事業を実施し、発信に努めた。

２．ヒロシマ情報の多言語発信（通年）

中国新聞ヒロシマ平和メディアセンターのウェブサイトを通じて、前年度に続き 2022 年度も閲覧数の多い英語圏の読者向けに、2020 年度に新聞協会賞を受賞した「ヒロシマの空白」に関する記事と画像を英訳して情報発信した。加えてウクライナ情報の発信にも注力した。今後も多言語発信事業を広く市民に知ってもらい、2014 年に創

設した「平和サポーター寄付金制度」の寄付を受け付け、コンテンツの充実とより多くの情報発信を行う。

３．ヒロシマ ピースグラント 2022（６～７月）

1995 年の被爆 50 年を機に中国新聞社が寄託した基金をもとに広島国際文化財団が被爆体験の継承と平和創造のための活動を支援する目的で創設した助成制度で、2013 年度から当基金がこの事業を引き継ぎ、助成対象を公募している。28 回目（基金事業としては 10 回目）の 2022 年度は、22 団体、５個人から申請があり、選考の結果、下記の９団体、３個人に助成した。

【団体】

▽ヒロシマ「 」継ぐ展実行委員会（東京都武蔵野市・久保田涼子代表）▽小中学生とヒロシマを語りあい隊(広島市・平井花奈代表)▽みんなで伝え合おうヒロシマ・ナガサキ～広島の会(広島市･叶真幹代表)▽ヒロシマ･ピース･オーケストラ実行委員会(広島市・岡田倫弥代表)▽“Message for Peace from East Asia” Study Group(米国インディアナ州・ハリス田川泉代表)▽EO PEACE 実行委員会(広島市・富永幸葵代表)▽広島市立基町高等学校(広島市・徳丸憲之校長)▽被爆三世これからの私たちはproject(広島市・堂畝紘子代表)▽「原爆ドームとヒロシマ」実行委員会(広島市・出山ひさ子代表)

【個人】

▽東條梓さん（米国アイダホ州）▽井上泰浩さん（広島市）▽鈴木裕貴さん（滋賀県栗東市）

４．ヒロシマ・アピールズポスター2022（７～８月）

世界平和を希求する「ヒロシマの心」を視覚で訴えるポスターとして 1983 年に制作開始。公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）と広島国際文化財団が共同で毎年１作品を制作。1989 年の７作目の後休止していたが、2005 年に再開し継続している。当基金は 2013 年度から事業に加わっている。

通算 26 作目に当たる当期は、東京都渋谷区のクリエイティブディレクター佐藤可士和氏がデザインを担当、タイトルは「ＮＯ ＮＵＫＥＳ ＮＯ ＷＡＲ」。2022 年２月 24 日ロシアによるウクライナ侵攻、核兵器使用の威嚇、世界の緊張が高まる中、日本は唯一の被爆国として特別な役割を担う。今こそストレートに声を上げる必要があると強く感じ、ポスターは敢えてタイポグラフィーのみで構成。Ｏと０の文字を黄色い円にして和をイメージさせ、平和の実現を心から願う希望の光を表現した。また 2022 年度はポスター発表時に中国放送テレビ番組「いまナマ」へ佐藤可士和氏が出演、7 月 27 日に首相官邸で岸田文雄総理に松井一實広島市長からポスター寄贈、８月には 157 駐在大使館へ寄贈するなど、2023 年５月開催のＧ７広島サミットへ向け機運を高める取り組みを行った。

５.ヒロシマ・スカラシップ 2022　海外留学奨学金・中村音楽奨学金（10 月）

広島県在住者または出身者で、海外や国内でさまざまな芸術の分野にチャレンジする若い芸術家たちに奨学金を支給する制度。助成対象は公募している。「海外留学奨学金」（音楽を除く芸術全般）と「中村音楽奨学金」（音楽分野に限定）の２部門があり、１人につき年間 36 万円の奨学金を最大２年間支給する。

海外留学奨学金＝分野は特に定めない。

2022 年度は６人の応募があり、石橋大河さん(24)＝アメリカ・バークリー音楽大に新設の音楽ビジネス・マネジメント学部留学、音楽ビジネス専攻▽岡村珠代さん（23）＝オランダ・ザウト応用科学大修士課程留学、サイエンスイラストレーション専攻―の２人が選ばれた。

中村音楽奨学金＝修学先は国内・海外を問わない。

2022 年度は 14 人の応募があり、岩原綾子さん(23)＝東京藝術大器楽科在学中、声楽（バロック）▽足利水月さん(21)＝東京藝術大器楽科在学中、ヴァイオリン▽九鬼みつ実さん(21)＝エリザベト音楽大演奏学科在学中、フルート▽坂直さん(18)＝大阪大外国語学科在学中、ヴァイオリン―の４人が選ばれた。

６. 国際交流フェスティバル「ぺあせろべ」（10 月）

広島在住の外国人家族や留学生らと市民が集い、食や遊びを通して互いの文化に触れ、国際交流を図る狙いで 1984 年から開催されているが 2022 年は 2020 年、2021 年に続き新型コロナウイルス感染拡大のため中止とした。

７. 国際交流奨励賞（2023 年１月）

平和創造の願いを実現するための国境を越えた地道な市民交流活動を奨励しようと、1998 年に広島国際文化財団が創設した表彰制度。ヒロシマ平和創造基金が公益財団法人に認定されたのを機に事業を引き継いだ。

2022 年度は、７団体１個人の応募があり、次の３団体を選んだ。

▽メラウーキャンプ教育支援の会（三次市・小武正教代表）＝2008 年からタイのメラウー難民キャンプにある学校を中心に教育支援活動を行う。2021 年２月１日のクーデター以降は新たに難民となった人たちへの支援も展開、継続（14 年）▽HBG ウクライナ子ども支援実行委員会（広島市・伊藤駿代表）＝2022 年２月のウクライナ侵攻を受け現地の子どものニーズに応じた支援活動をいち早く行う。寄付や物資を送るだけでなく SNS 発信などで日本国内の子ども・若者の平和意識向上にも寄与（２年）▽武田中学校高等学校インターアクトクラブ（東広島市・アシュリー サウザー教諭）中高生の持つ問題意識や関心に基づいて生徒と教員が協働し、社会奉仕・平和貢献・国際理解の活動を多岐にわたり続け、世界平和に貢献できる人材を育成している（８年）。

以上